

神岡スタンダード

パート1

－学習習慣・小学校編－

1 学習に必要な持ち物

【筆入れの中】

- 削った鉛筆 5～7本 (B, 2B, できればキャップ付き) 白い消しゴム
- 15cmくらいの定規 (2年生以上) 赤ペン・青ペン (低学年は赤・青鉛筆)
- ネームペン (2年生以上)

【工具箱や道具袋の中】

- のり はさみ 色鉛筆 (クーピーなど) 30cmものさし (2年生以上)
- 三角定規 (2年生以上) コンパス (3年生以上) 分度器 (4年生以上)

【ロッカーの中】

- 国語辞典 (3年生以上)

*シャープペンシルや色ペンは、学校に持ってこない。

*学習の集中を妨げるおもちゃのような学習道具 (飾りのついた鉛筆や定規, 消しゴム等), 缶のペンケースは、学校に持ってこない。

*筆入れにマスコットやキーホルダーをつけない。

*下敷きは、無地のものを使用する。

2 学習の約束

(1) 基本

- ・時刻になったら (チャイムが鳴ったら), すぐ授業を始める。
- ・授業時間は勝手に立ち歩かない。
- ・いすに深く腰掛け, 机に肘をつかない。
- ・大きな声ではっきり「はい」と返事をする。
- ・机の上には, 鉛筆・赤青ペン・消しゴム・定規を用意し, 筆入れは机の中に入れる。
- ・席を離れるときは, 椅子を入れる。
- ・次の時間の教科書やノートを机の上に準備してから休む。

(2) 話の聞き方

- ・手を膝の上に置き, 話す人の方を向いて聞く。
- ・話が終わるまで黙って聞き, 途中で口をはさまない。
- ・うなずいたり, メモをとったりしながら聞く。
- *授業と関係ない私語・無駄話, ざわつきは厳禁!

(3) 発表の仕方

- ・挙手をするときは、手をしっかり伸ばす。
- ・返事は大きな声で「はい」と一度だけはっきりと言う。
- ・立つときは、椅子を入れずに、椅子の横に静かに立つ。
- ・みんなの方を向き、みんなに聞こえる声の大きさを、最後まできちんと話す。
- ・基本話型を使って分かりやすく話す。
*「身に付けたい話型の系統表」を参照！

(4) 本の読み方

- ・背筋を伸ばし、本を両手で支え、本から目を30cm程度離して読む。
- ・場に応じた音量、速度で読む。

(5) 文字の書き方

- ・机と体の間は、にぎりこぶしひとつ分ぐらいの間隔をとり、背筋を伸ばして腰掛ける。
- ・足の裏を床につける。
- ・ノートから30cm程度目を離して書く。利き手でない手でノートを押さえ、肘は、机につかないようにする。
- ・教科書は、ノートの左側に置く。
- ・鉛筆を正しく持って書く。

(6) 資料の活用

- ・教科書や副読本・資料集、見学・インタビュー、テレビ・インターネット、新聞・パンフレット等から必要な情報を収集する。自分の問題解決に必要な情報であるか見分け、選択する。
- ・いくつかの資料を関連付けたり、資料と自分の生活を関連付けたりして読む。

(7) 校外学習・フィールドワーク

- ・歩行時のルール、バスの乗り方、見学場所での安全に気を付ける。
- ・集団行動では、時間を守り、一人で行動しない。
- ・気持ちよいあいさつや言葉遣い、返事をする。
- ・説明してくれる人の話をよく聞き、きちんと反応する。
- ・「分からないところはどこか?」「質問したいことは何か?」を常に意識して聞く。

3 ノートの使い方

- ・ノートのサイズ、マス目の大きさ、罫線の広さは、学年にあったものを使う。
- ・教科別のレイアウトを指導する。
- ・ノートに書くときは、下敷きを使用し、日にち・曜日を定められた場所を書く。
- ・本時の「めあて・課題」など大事なことは、赤で囲み、「まとめ」は青で囲む。
- ・行をゆっくりあけ余白を作り、必要なコメントや計算を書く。
- ・算数の文章題の筆算は、消さずに残す。間違った答えを書いたときは、赤色で正しい答えを書き、振り返りができるようにする。
- ・時には、子ども同士がノートを交換し合い評価し合うようにする。

1 学習の約束

(1) 基本

- ・前日の教科連絡を確実にやり、教科毎に指示された用具をデイリーノートに忘れずに書いて準備するようにする。
- ・ノーチャイム。始業時間を守り、準備して3分前には着席をする。
- ・テスト時は、机上に鉛筆、シャープペン、三角定規、コンパス、定規、消しゴムだけを置く。
- ・教室の移動は、速やかに行動する。
- ・始めと終わりの元気なあいさつをする。しっかりとした号令で一人一人が声を出す。

<授業開始時>

「起立、これから〇〇の授業を始めます。お願いします。」の号令で

全員が「お願いします。」

<授業終了時>

「起立、これで〇〇の授業を終わります。」の号令で全員が「ありがとうございました。」

(2) 話の聞き方

- ・話す人の方に体を向けて聞く。
- ・必要に応じてメモをとりながら聞く。
- ・相手の意見を共感的に受け止め、自分の考えとの類似点や相違点を考えながら聞く。

(3) 発表の仕方

- ・「はい」と返事をしてその場に立つ。
- ・場に応じた適切な声量で話す。
- ・根拠を示しながら、論理的に自分の考えを伝える。

* 「身に付けたい話型の系統表」を参照！

(4) 書き方

- ・正しい姿勢で丁寧に書く。
- ・ノートは板書を基に、自分なりに要点等を工夫して書く。

パート3

－授業の進め方・小学校編－

神岡小学校共通実践のポイント

- 1 「神岡小型問題解決学習（授業のAL化）」を推進し、活用する力の向上を図る
- 2 確かな学力を定着させるとともに、読解力を高める
- 3 小・中9年間（特に、中3のゴール）を見越した学習指導を展開する
- 4 スクールマニフェストの到達指標（数値目標）を、常に意識する

1 「神岡小型問題解決学習」の共通実践

（1）「課題（めあて）」を示し、見通しをもたせます

- ・子どもたちに課題意識をもたせるため、「めあて」は、「〇〇しよう。」のレッツ型から、「〇〇するには、どうすればよいのだろうか。」「なぜ〇〇なのだろうか。」の疑問型（ハウツー型）にシフトします。
- ※「課題（めあて）」は、「まとめ」との整合を意識します。また、「1単位時間で付けた力」を明確に示し、「今日のゴール」を意識化させます。

（2）「自力解決」の場をもたせます

- ・ノートに自分の考えを書かせます。
- ・制限時間を提示し、時間内に考える力を育てます。（タイマー等の活用）
- ・図や言葉、式など、さまざまな方法で考えることができるような手立てを準備しておきます。（既習内容の教室掲示・ヒントカードの準備等）
- ・自分の考えを、小ボード等を用いて説明できるように準備させます。

（3）「学び合い」の場をもたせます

- ・問題（課題）によって、学び合いの形態を工夫します。（ペア・グループ・全体）
- ・学年相応の発表の仕方（話型）を身に付けさせます。
- ・一定の条件の中で、多様な意見・考えを出させ、思考過程を大切に学習を進めます。
- ・ホワイトボードや移動黒板、ノートの実物投影、付箋紙等を活用します。

（4）板書を工夫します

- ・事前に板書計画を立てます。
- ・文字の大きさや色チョークの使い方を工夫します。
- ・「カード」を用いて分かりやすい板書にします。
（めあて・課題・予想・考え・まとめ・キーワードなど）
- ・板書でノートの書き方を指導します。低学年は拡大版ノートを用いて指導します。
- ・算数では見開き2ページ使用を基本とし、板書とノートを整合させます。

（5）学習の「まとめ」・「ふりかえり」を確実に行います

- ・「課題（めあて）」（赤）と「まとめ」（青）を整合させます。（それぞれ色チョークで囲む。）
- ・学習のまとめや練習問題・適用問題等のふりかえりの時間を、5分以上確保します。
- ・宿題や、家庭学習での復習を指示します。

2 「活用する力」の向上

- ・身に付けた知識・技能を他で使えないか考えたり，日常の場面につなげてみたり，実際の「活用」場面を視野に入れた工夫を授業に取り入れ，より実感の伴った理解につなげると意識します。
- ・本時の課題解決のために，活用する既習事項をしっかり把握します。
- ・各界の専門家や大学教員などの活用による「コラボ学習」を積極的に導入します。
- ・各教科等では「地域素材（ひと・もの・こと）」の活用を強く意識します。
- ・各教等の学習に，キャリア教育，ふるさと教育，食育，防災教育，総合的な学習の時間の教科横断的な教育活動のエッセンスを取り入れ，「実生活の場面で活用」を強く意識付けます。

3 「読解力」の向上

- ・多様な資料（朝日，毎日小学生新聞定期購読，インターネット，本，科学雑誌等）を用いて，目的をもった読みや客観的な読みをさせます。特に4～6年は「朝日小学生新聞で学ぶ『今解き教室』」を活用し，読解力・思考力・記述力を高めます。
- ・読み取った情報を正確に取り出し，決められた字数で書く活動を取り入れます。朝の活動の時間でも週に1回程度，短作文を書く時間を設定します。（県教委「短作文シリーズ」も活用）
- ・家庭学習で教科書の音読，詩の暗唱をさせます。朝の会や教科指導で朗読や群読を取り入れ，学習発表会では全校群読を行います。
- ・国語辞典や漢字辞典を使い，語句を調べる習慣を付けます。
- ・図書館の「調べ学習コーナー」を有効利用します。加えて，公立図書館の利用（団体貸し出し等）や読書支援サポーター・図書ボランティアの読み聞かせ，読書集会も行います。

4 その他

- ・学力の二極化に対応するため，3年生以上の算数では，習熟度別，興味・関心別，課題別等の「コース別学習」を積極的に行います。（その子に合った発展的な課題，補充的な課題を準備）
- ・「フォローアップ強化期間（年3回）」を，全職員体制で行います。（全国・県調査で明らかになった課題＜重点単元＞を，特に念入りに指導）
- ・肯定的なフィードバック（つまり「ほめる」こと）や一人勉強ノート，掲示物・作品等への「朱コメント」は，全職員が行います。

パート4

－授業の進め方・中学校編－

平和中学校の重点と共通実践事項

目指す生徒の姿

- たくましく生きる力をもつ生徒
「確かな学力」と「生きる力」に資質・能力を備えて実践していく力をもつ生徒
- 問いを発する生徒
問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく生徒
- 学び合いのできる生徒
自分から働き掛けて友達やモノとの関わり、協同で課題に挑戦しながら自分の力を高めていく生徒
- 適切に自分を表現できる生徒
自分の意見や考えをもち、相手意識、目的意識、場面状況・条件意識に基づいて方法意識・評価意識を働かせて適切に表現することができる生徒

1 問いを発し、学び合いを通して課題の解決を図る生徒の育成

- ・失敗や間違い、多様な考えが受容される学習集団を育てる
- ・生徒にとっての学習のゴールを明確にする
- ・自分にとっての学習課題を認識させる→（「学習課題」のカードを統一して使用）
- ・他者と関わって思考し、判断し、表現するなどの言語活動の充実を図る
- ・学び合いを充実させるために

①学びの作法の確認

- ・分からないとき、自分から仲間に訊く
- ・訊かれたら相手が納得するまできちんと説明する
- ・分かった人から「教えてあげる」とは言わない

②分かるということの確認

- a. 分かってできるレベル
- b. 分かっていることを説明できるレベル
- c. 分かっていることを教えることができるレベル
- d. 分かっていない子の問いに対応し、援助できるレベル

③話しやすい・尋ねやすい環境づくり（全教室に掲示）

「ねえ、ここどうするの？」

「分からないから、教えて」

「どこで困っているの？」

「分からないところない？」

- ・自己評価・相互評価の場面設定と質の向上を図る
- ・成就感・自己課題、成長を認識させる

2 適切に自分を表現できる生徒の育成

- ・一人一人が活躍する場や他者から認められる場を設定する
- ・場面・状況・条件を意識させ、方法や評価を考えさせる
- ・国語力の向上のために課題作文を実施する（水曜日の朝）